

社会を明るくする運動

太田市立駒形小学校

六年

前原

悠人

まえはら

はると

私は、毎月学校で行われる挨拶運動にボランティアとして参加しています。挨拶をする時、とてもすがすがしい気持ちになります。挨拶運動のボランティアをしていると、元氣よく挨拶を返してくれる人もいれば、挨拶をしないうで下を向いたまま通り過ぎて行ってしまう人もいます。そんな人を見ると私は、少し残念で不安になることがあります。なぜ、

挨拶をしないで行ってしまう人を見ると不安に感じるのか少し考えてみました。

まず、第一に思ったのはその人の表情です。下を向いて行ってしまう人たちは、笑顔がなく少し表情が暗いと感じました。

次に、そういう人はいつも一人ぼっちだと思いました。逆に、元氣よく挨拶を返してくれる人は、いつも友達と一緒に話しながら来るけれど、下を向いて行ってしまう人は、表情もそうですが、一人で黙って通り過ぎて行



ろ

4

てしまう人が大半です。それで、私は「大丈夫かなあ」と心配になってしまったのだと思います。

なぜ、心配になってしまったかというところ、テレビのニュースでいじめについてやっているのを見たからです。そのニュースと、私が朝の挨拶運動で考えていた事は関係性があると思います。それは、ニュースの中で言うていた、いじめを受けている人は友達も身近に相談する人もいない為、自分だけで解決し

ようと、一人で悩みを抱えこんでしまうというものでした。確かに、挨拶運動をしていて黙って行ってしまう人は、ニュースで言うていたように、一人で何かを抱え込んでしまうタイプかなと思います。なので、そういう人を見かけたらほかの人よりももっと元気な声で挨拶をしたり、「どうしたの？」などと声をかけたり、相談にのってあげられたら、その人の悩みも解消し、楽しく学校生活を送っていくことが出来るかも知れないと思います。



5

た。しかし、私が挨拶運動で出会っているのは学校の生徒だけなので生徒の人の悩みを聞くことはできるかも知れませんが、社会にはこのように何かを抱え込んでいる人が多く、たくさん居ると思います。そこで、どのようになれば社会に多くの悩みを抱えている人の問題を解消させることが出来るのか、本などで調べながら考えてみることにしました。

6

うところがあったので読んでみると、「地域の居場所づくりで誰かとつながれる場所を共有」や、「一人じゃないと思わせるようなことをする」ということが書かれていました。それを読んで確かに居場所があれば、誰かに悩みを言うことが出来るしその人が孤立するのも防ぐことが出来ると思いました。

私は、ボランティアの挨拶運動で感じたひとつの事から社会には悩みを抱えて孤立している人達が沢山いること、そして悩みを抱え



8

7

ている人達にどの様に接してあげれば良いかなどいろいろ考えてみる事が出来ました。また、知らなかった新しい事を知ることにも出来ました。大人になってからもこのことを思い出し、悩んでいる人を見かけたら声をかけたり、居場所を用意してあげられる人になりたいです。そして、孤独を感じる人がいなくなればきっと社会が明るくなると思いました。